

ぐるっと高島恋物語

詞 木下源也

朱色（あかい）鳥居が 琵琶湖に映える
山の端迫る 白鬚神社
若いふたりの 願いを訊けば
花も咲きます 頬もゆるみます
小鳥の囀り 若葉の季節
そよ吹く風に なびく恋

北へ向かえば 山並み沿って
田畑が広がる 安曇川平野
注ぐ太陽（ひかり）に 青空高く
くるり輪を描き 鳶が遊びます
暮らしに勤しむ その手を休め
見上げるその目に 浮かぶ笑み

饗庭野過ぎれば 今津の港
竹生の島影 いよいよ濃（あつ）く
初夏の色彩（いろどり） 観光船の
白い船体 汽笛響きます
湖上を渡る さやかな風も
疲れた心を 癒す夢

海津大崎 桜の名所
かたくり恋しい 石庭の雑木林（はやし）
二度と離さぬ 離れはしない
きつと幸せ 君とふたりなら
手を取り携え 夕陽の並木
歩く故郷 香る薫風（かぜ）